

### 感想



藤田始史 さん

左京区在住。  
たまに農家。たまに大工。ほか色々。  
和東で古民家改修。



舞鶴市西部に岡田中と呼ばれる地域がある。岡田由里、富室、西方寺、河原、下見谷、下漆原、上漆原、長谷、岡田中の10集落からなり、地域の人口は614人。257世帯が暮らしている。

今回この地域を取り上げたのは、京都府下屈指の1ターン率の高さである。人口の1割にあたる60人が、よそからの移住者、1ターン者であり、特に若い世代が多い。年齢別人口分布を見ても、10歳未満の人口がおよそ1割、地域の平均年齢が40代という、少子高齢化が進む現在の日本の農村部の状況とはかけ離れた状況である。

実際に私が調査に行った時も、保育園児が10人くらいで芋掘りをしていたり、4歳か5歳くらいの兄弟が山を走り回って遊んでいた。「○○さんの子どもですよ。」と言いながら、案内してくれた方が「危険な所に行くなよ。」と声をかけていた。地域の子どもを地域で育てる、そのような雰囲気がこの地域にあった。

Iターンが多いのは何故か。そう自治会の人にたずねると、「30年前から取り組みをしている。」との答えだった。

舞鶴市、綾部市、福知山市といった北近畿の中核都市から車で2、30分の距離に位置するこの地域では、30年以上前から地域を離れる人が多く、その当時から危機意識を持っていたとのことだった。

また、地域の畑は地域で守るという考えのもと、昔から耕作放置になった畑を輪番制で地域で管理していたそうで、農村部でIターンの方に話を伺うとよく聞かれる「畑を貸してくれない」という問題が、その畑を貸し出すということで解決されてきたようである。

定住促進に向けて様々な取り組みが行われてきた。

地域の人が株主となって皆で空き家を改修した宿泊施設「雲の上のゲストハウス」では、岡田中を訪れて頂くための宿泊拠点として機能し、都会の人に田舎暮らしを体験してもらう「農業小学校」（現在は休校中）を開校した。

また、情報発信拠点として「上野家」を改修し、地元の人Iターン者からなる「NPO 法人 KYO ふるさと加佐」で運営委託を受け管理している。

若い夫婦が就農し易いように、畑と宿泊所（「トレーラーハウス」）をセットで格安で貸し出すプロジェクトなどである。

私が調査に伺った時も、自治会の定住促進部会の方がこられたり等、Iターンの受け入れに対し、積極的な様子が見えた。（3月末にも定住促進のイベントを行うようである。）



現在では、1ターンで移住した若い方が、積極的にそのネットワークを使って家の改修のワークショップをしたり、「万願寺まつり」（この地域が、万願寺とうがらしの発祥の地であることを利用した地域活性化のイベント）などを企画をすることで、都市の若い人を呼び込みながら仲間を増やしていっているようである。

定住促進に関して積極的で実績を残してきた一方、1ターンしてきたものの農作業が大変でまた都市に戻ったという方の話や、新規就農したものの販路が見つからず生活が大変だという話も伺った。1ターン者してきた方に対するアフターフォローが今後の課題になってくるようである。

また色々な集落をまわり、昔から住んでいる地元の方に話を伺ったところ、「新規就農の1ターンが多いのは、西方寺平（「雲の上のゲストハウス」や、「トレーラーハウス」がある集落）だけで、そこだけで盛り上がっている。その他にはあまりこないし、空き家になっても家を貸したりする人もいない。」という話を伺った。

1ターン者と地元の方とのコミュニティに温度差があるような印象を受けた。先の「万願寺まつり」の主催者から、「地元の方に参加して頂くかが課題である」という話を聞いた。

地元の方をどう巻き込んでいくか。1ターンの先駆者として、今後の活動に期待したい。

